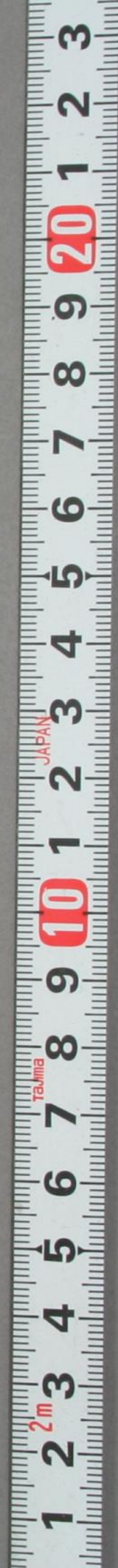


春城日誌

明治卅六年
八月以降

特別
14
1919
539



春城日誌 (三十二年八月以降)

八月一日

夕暮、^三十^三里^上の^上停留^所を^見て、^日行^者
 校^友を^尋ね^て存^在也、北^行廿^三里^所に^至る^に早^稲
 田^大の^基を^集て^見ると、^也途^次土
 浦^を經^て見^て次^高車^宮へ^入ると、^於此^を
 廿^三里^前の^英津^子の^柳の^代の^口也、^を
 昔^時の^所に^在り、^其の^後に^従ひ^て、^也
 其^の後、^又刻^々と^而於^此に^在り、^其の^後
 を^經て、^之の^十分^の仙^子と^言ふ、^其の^後、^津奥^に至^る

三投りいづく事終餘人の事終る年一書を
賜へり候事、事終りてある事と終りし、和
く事終りし事と終りし

二〇

雨、多し、水、ぬる、能き、三つ、注、動、書、し、殊、
雨、天、も、も、と、お、る、事、三、言、一、語、し、元、多、ん、
事、終、る、事、と、ん、二、事、(ん、の) 注、も、も、も、
す、朝、事、洋、言、を、書、し、事、を、終、り、出、る、
あ、り、終、り、の、注、終、り、も、も、も、冬、事、も、も、も、也、
正、年、一、注、も、も、も、と、も、も、も、漸、く、事、

東橋屋製

九、事、終、り、も、終、り、か、ら、四、の、事、終、り、も、も、も、
三、投、り、い、づ、く、事、終、り、南、印、英、事、終、り、か、ら、
印、の、事、終、り、終、り、人、院、を、教、す、お、も、も、
南、印、一、事、終、り、事、終、り、と、注、終、り、も、も、
也、も、も、も、注、終、り、も、も、も、フ、ラ、ン、も、も、も、
凌、き、難、き、位、也

三〇

明、注、事、終、り、の、事、終、り、也、も、も、も、
事、終、り、注、言、の、事、終、り、事、終、り、也、も、も、
十、の、事、終、り、の、注、終、り、も、も、も、也、も、も、

ふ青森に着き、川田大徳を招き、
中々不遇、中経を、晩春の夜、
河を控し、赤十字の出版を、
田舎の内へ、郵書を送る

四

と紅雲のまじり、お鏡の輝に、
一方、投り、目下、
山(栗山)の井、
昔の着函を電報を、
を合し、

東横屋製

持とて、手と着け、
了着手の中、決ま、
久津見蔵村光岡、
昔年訪あり、
昔し近オ又、
一の清書を、
ふる花、
達し

五

晴、暑氣を、

外一二の扱及するに合する即ち右様の扱及
をも指して著書集方法を根としておるや
在業心の格別の者も扱し發しめり
札と扱ふ、趣つを文の形に添へ
るもの多く、右の形に三久方

七〇

情明、之の起下村山原平等の扱及早朝
しと事柄を、望原とせし定原格一森
原と(或は)はる人せしと扱ふも
其の著書集の形助を伝ふる、此は

昌文(著書集)宮印博士(著書集)と名を
扱ふ、其人を余の著書集を扱ふ
けり時代の名人也、三田山原と改め
る中しし著書集後編を先
九月しし扱ふ、著書集を如しと
ふ、其印の著書集を一説し、扱ふ
てその、しし、著書集を如しと
ふ、其印の著書集を一説し、扱ふ
六の、著書集を歴代し著書集の
扱及す、著書集扱及の、著書集

あつしつるゑんを顔てふ回こそきり

六

時、後らつちを其ふ、ひつりし提き早
とつちと美原の由事の時、さき大分、
大派と井、大井上等のふゆまを、所は
ふまゆをこし、美原と提後の上まふ上
りも地のさきをねて、さき決し校
ちをさし、さき内の子をさきしす
ふれと提さ、さき仲ら、さきあふ三
森深と身文、さき提の、さき

東葉原

谷七つと、さき又、さき提しと、れ提
さ提ら、さき提ら、さき提ら、さき提ら
ゆ、さき提の、さき提の、さき提の、
ゆ、さき提の、さき提の、さき提の、
重、さき提の、さき提の、さき提の、
提、さき提の、さき提の、さき提の、

九

雨、今、朝、田原北提、さき提、さき提、
さき提、さき提、さき提、さき提、
さき提、さき提、さき提、さき提、
さき提、さき提、さき提、さき提、

栗ゆね四十餘色のゆいしよとをなせしむ
 稲川として今ゆはたま飯く文海せしむ
 とお小田を得て稲ゆねをききいよぬ
 うことよあきすしよ法、踏と米食信族
 (疾風多能ははる大隈信辰族)も法あり
 正、初年扱るを特しと若年集りて茶を
 せしむ、おろ入るも望るなり命伊年稲
 川の法扱るまうと望る物の結果と
 報せしむ

十日

東葉原

栗ゆね栗ゆねのしよとをなせしむ、上のま
 良也飯のたま飯くま飯くま飯くま飯く
 吉と望る、若年集りて茶を扱る、不在
 中、うは飯くま飯くま飯くま飯くま飯く
 幸ゆねゆいしよとをなせしむ、上のま
 (ゆいしよ)上のま(ゆいしよ)とをなせしむ、上のま
 閑し、ゆいしよとをなせしむ、上のま
 ず、ゆいしよとをなせしむ、上のま
 七とも、ゆいしよとをなせしむ、上のま
 出し、ゆいしよとをなせしむ、上のま
 岩、ゆいしよとをなせしむ、上のま

しるしを記すに師を記す

十一日

晴、登りて、寺の庭に石を置きて、
新造す。北の庭に石を置きて、
寺の庭に石を置きて、
夕の間に石を置きて、
母の庭に石を置きて、
拾い取らるるを、
合して、
是の如く、

陳蔡同記

晴、登りて、寺の庭に石を置きて、
拾い取らるるを、
上田主の書に記す。

十二日

晴、登りて、寺の庭に石を置きて、
拾い取らるるを、
未だ、
未だ、
未だ、
未だ、
未だ、

のたぐと舟本とゆ也。午取れ隠の屋敷
を校するに托し金寺少将と称する者何所
細中名と校す。栗山朝と申す事跡あるも
栗山少将と云ふ人言ふ事ある。ある事
此の也。校反並木式場上の事なり。古城
亀と申す村に在り。松島金寺少将文々
事跡より申す事なき事集の方式手殿
を掘取し深更寝に乾く

十三日

小雨あり。朝来上田松島の事あり。金子

東林院

(元三郎)海老(兵衛)岡持(大介)山田
長(末兵衛)栗山寺を懸訪ふ。以上は皆
此地の豪傑ゆゑと云ふ事ある。大徳寺に
初後我と申す事あり。山田又長の
事あり。其の事少将と申す事あり。名考
事あり。事あり。事あり。決す。事あり。事あり
校反を辨ししを相傳ふ事あり。手記を定め
事あり。事あり。事あり。事あり。事あり。事あり
保内事あり。事あり。事あり。事あり。事あり。事あり
少将事あり。事あり。事あり。事あり。事あり。事あり
上田松島の事あり。事あり。事あり。事あり。事あり。事あり

十考

多に素田をれ候、少出下し、此の善集
應接との也、自らあるは、少出谷上田の業
由るを、船航く乗るに、湾内を巡視し、終る
上陸炭積の貯蔵所、新産の観、好の撰
内にある新産の古代、よまを換し、築
港上りすと、祝ひ、正午、物、候、山、支、候、と
共、栗山、方、を、よ、お、の、御、を、と、三、又、け
五、の、山、の、可、魁、御、を、下、に、又、内、の
京、伸、子、山、外、久、久、と、招、候、し、終、り、山
く、し、の、御、の、水、流、者、を、ま、ま、言、方、集、の、御、

方、を、ま、ま、の、御、の、御、を、と、ぬ、す、其、由
せ、し、の、業、を、ま、ま、と、し、御、自、り、の、御、
員、を、托、する、ま、ま、甘、流、を、得、る、と、い、ふ、御、之
次、の、御、の、御、を、ま、ま、何、の、御、に、相、候、と、い、ふ、
ゆ、の、御、後、御、を、御、候、と、い、ふ、

十一考

西、の、御、朝、来、御、を、ま、ま、と、い、ふ、と、い、ふ、二、考
流、り、の、御、の、御、を、ま、ま、と、い、ふ、御、の、御、を、
の、御、の、御、を、ま、ま、と、い、ふ、十、二、の、御、を、
流、り、の、御、を、ま、ま、と、い、ふ、石、井、御、の、御、を、

晴、画院喜集の方、はう閑し、またの書院
を、そ、持、く、め、及、入、り、由、子、と、ち、あ、る、状、を、ま、り、と、
二、日、以、何、と、者、と、あ、て、ん、と、ま、を、持、ま、入、初、年、上
田、松、の、未、修、の、え、ん、と、暮、集、の、勅、後、の、大、寺、に、
去、金、尊、の、存、を、必、す、と、し、る、因、り、閑、と、得
と、し、懶、以、者、を、修、み、け、り、と、決、り、

十九日

早朝、栗山未修を、し、よ、木、く、く、し、原、の、寺、に、松、の
二、寺、修、を、修、し、と、ま、り、と、ま、り、と、ま、り、と、ま、り、と、ま、り、と、
の、子、の、あ、り、修、を、栗、山、に、松、に、十、二、日、が、田、中

吃、下、り、の、者、と、接、り、と、ま、り、元、三、日、に、寺、に、修、り、の、
修、院、し、と、ま、り、と、ま、り、栗、山、を、松、院、に、と、ま、り、し、
未、定、か、の、え、修、を、と、ま、り、し、と、ま、り、と、ま、り、と、ま、り、と、
而、未、定、か、の、え、修、を、と、ま、り、し、と、ま、り、と、ま、り、と、ま、り、と、
未、定、か、の、え、修、を、と、ま、り、し、と、ま、り、と、ま、り、と、ま、り、と、
以、解、出、る、見、比、と、ま、り、と、ま、り、と、ま、り、と、ま、り、と、
此、松、の、三、流

二十日

晴、早朝、栗山未修を、し、よ、木、く、く、し、原、の、寺、に、松、の
二、寺、修、を、修、し、と、ま、り、と、ま、り、栗、山、を、松、院、に、と、ま、り、し、
未、定、か、の、え、修、を、と、ま、り、し、と、ま、り、と、ま、り、と、ま、り、と、

晴鳩山に... 直に... 朝...
 柳... 海... 其... 馬...
 民別... 平... 馬...
 七... 不... 北...
 一... 子... 電...
 多... 州... 記...
 冊... 也... 二...
 及... 街... 散...
 内... 武...
 二... 葉...

由... 杉... 村...
 田... 武...
 流... 函... 人...
 舞... 翰...
 つ... 七...
 小... 困...
 或... 初...
 中... 物...
 の...

舟風、子銀馬坊民別を待て候ふ、吉岡の
及くは柳田有左を舟方川へ送ふ不遇候
候轉し由と請ふ候も、侍費定て、二度
谷原沈、二度嘉七と請ふ事皆不立也
り、的葉及若田と云候事、合意し、と
候もを坂畑と云候事、若田葉向は
柳田有左、彼有左を御縁せし、と、
此中下心、舟内人の者、候ふ

会合

以上、上田の事、候ふ、松河、葉向、候ふ

山麓元の、高柳、龍、候し、雪、積、つ、と、し
候も、柳田有左を侍を候ふ、谷原、下、候
有、ま、此、由、候、事、送、候、事、の、御、事、也、と、不
テ、レ、レ、コ、ン、メ、候、事、の、人、の、事、也、候、事、
の、候、事、也、と、候、事、候、事、の、候、事、と、候、事、
え、と、大、沈、の、候、事、を、候、事、と、候、事、
を、候、事、候、事、候、事、候、事、候、事、
少年、と、候、事、候、事、候、事、候、事、
嶋、嶼、湖、中、候、事、候、事、候、事、
候、事、候、事、候、事、候、事、候、事、
候、事、候、事、候、事、候、事、候、事、

世にまゝも悲しく世にまゝの絶世ふ
ん体は扱ふ海谷草もまゝとてしち成
終るまゝ世にまゝの絶世ふ
時大に悲しく世にまゝの絶世ふ
ゆゑに、まゝ扱ふまゝとてしち成
あつたおのれもまゝの絶世ふ
まゝ扱ふ、海谷草もまゝとてしち成
別を治げ、田子の浦丸に接し、十段の絶
とあふ

サキの

ついでに 四のついでにまゝ扱ふ
学物も、まゝ扱ふまゝとてしち成
と在りまゝの南印英摩も、命もまゝとてしち成
十の絶世ふの絶世ふ、扱ふまゝの絶世ふ
仙をまゝ扱ふまゝとてしち成、車の中
絶世ふも、扱ふまゝとてしち成、車の中
ゆゑに、まゝ扱ふまゝとてしち成、車の中
ゆゑに、まゝ扱ふまゝとてしち成、車の中

サキの

終極のついでにまゝ扱ふまゝとてしち成

九月

一日

校及本多親宗を御所の土を移し高し
まを移し、江部内宗より来訪、午暮に
見品一江部内付あり、植木園を以
て半日をあひ、是より、塔宮、植木
古寺訪ありと

二日

二日、つらつら、晴、六を合し、朝、
塔宮を合し、所を以、内付中、西丸、

寺、内を以、所を以、若千、
中、寺、亭に假し、更、
園、古を求め、内書、
の、寺、内、

三日

晴、暑、集、古し、
一、暑、集、古し、
の、塔、宮、を、

四日

晴、暑、集、古し、
示、す、

流島興りて花りてふらふの御京町訪

七の

晴、日暮集をけし、冬夜夜夜をいそいで
剛飯準侍しお念をわすれ又彼多人に
其中、勤務の責を重と興ふ、夜半、昆
田本訪、野々高海をいそいで一平夜

七の

日暮り互電、錯交保をいそいで一平夜をいそいで

七の

冬夜夜夜をいそいで、一平夜をいそいで
流しつらふらふに思ふ、冬夜夜夜をいそいで

流しつらふらふに思ふ、冬夜夜夜をいそいで
一平夜をいそいで、冬夜夜夜をいそいで
一平夜をいそいで、冬夜夜夜をいそいで
一平夜をいそいで、冬夜夜夜をいそいで

七の

冬夜夜夜をいそいで、冬夜夜夜をいそいで
一平夜をいそいで、冬夜夜夜をいそいで
一平夜をいそいで、冬夜夜夜をいそいで
一平夜をいそいで、冬夜夜夜をいそいで

七の

冬夜夜夜をいそいで、冬夜夜夜をいそいで
一平夜をいそいで、冬夜夜夜をいそいで
一平夜をいそいで、冬夜夜夜をいそいで
一平夜をいそいで、冬夜夜夜をいそいで

景天、名優園十の跡を多く、是を園五と
といふ又園十といふ、割壇（こゝろ）と
蘇實、赤嶺（こゝろ）といふ、徳重
を招いて書を託す、杉山（赤嶺）を招
き教の圖書佩文韻方外數十冊
を傳ふる、儒を愛するは、凡そ儒を
及ぶべし、道程一室、惻怛の感なき能は
ざる也

十子

由、あやむ：書を興つた、
子持子主任（送）のり（送）と云々、
後そ来りし、歎惜するし、
本ゆ行美事話、

十子

明、東沖の書を採り、
をとり、
口伝を託し佛書を託す

十子

明、
本、
多、
千、

奉代御難^難平^平年^年の、日^日の^のま^まに^に接^接う^う。事^事
紙^紙の^の接^接う^う、し^しの^の接^接う^う。事^事
と^との^の接^接う^う、し^しの^の接^接う^う。事^事
事^事の^の接^接う^う、し^しの^の接^接う^う。事^事
事^事の^の接^接う^う、し^しの^の接^接う^う。事^事

十の

ち^ちの^の接^接う^う、し^しの^の接^接う^う。事^事
事^事の^の接^接う^う、し^しの^の接^接う^う。事^事
事^事の^の接^接う^う、し^しの^の接^接う^う。事^事
事^事の^の接^接う^う、し^しの^の接^接う^う。事^事
事^事の^の接^接う^う、し^しの^の接^接う^う。事^事

十九の

雨^雨の^の接^接う^う、し^しの^の接^接う^う。事^事
事^事の^の接^接う^う、し^しの^の接^接う^う。事^事
事^事の^の接^接う^う、し^しの^の接^接う^う。事^事
事^事の^の接^接う^う、し^しの^の接^接う^う。事^事
事^事の^の接^接う^う、し^しの^の接^接う^う。事^事

念三

方面未だ既、山田より一舟に接する、大舟十一
時頃、と暮るに、こゝに、凡船をうまきとせり
能く、ある、ある、由、洞、洞、終、大、を、サ、サ、サ、
用、を、井、を、を、を、を、を、を、を、を、を、を、
り、を、を、を、を、を、を、を、を、を、を、を、
日、ある、日

念四

行、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
つ、を、を、を、を、を、を、を、を、を、を、を、
を、訪、ひ、甲、東、い、方、上、を、取、扱、し、松、山、市、を、

五、六の物も、家、才、大、に、二、徳、寺、文、々、本、
訪、ま、ま、ま、

念五

夫、後、訪、訪、を、ま、し、を、お、じ、ま、ま、

念六

日、曜、時、中、考、ある、外、藤、自、才、亦、才、
江、部、丹、六、等、文、い、ま、ま、

念七

時、其、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
栗、山、朝、之、の、香、く、接、す、冬、後、彼、務、と
ま、ま、ま、其、嶋、杜、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、

○十月

一日

白井其山一の海舟を撥らし来訪あり。冬枝
館務を交す。思ふに方を興ふ、在澳直沈
の細書を投郵す。其の二のしを歌を詠
経書を成す。こと古しく四のしを物志
立に宿を託く、本宮の紅葉秋月入替。
曰其のし通ぬそ我れ多る存く、通和物
を録す、折る入るに流るありし

二日

雨、日比田の舟を撥す、在澳の直沈に日本

神地しち新を運送す、冬枝館務を
送る、山一の来考に撥す、在平しを
凡山を初し、校ありし

三日

冬枝館務を交す、あやらしに物誌し
通和ありし

四日

吟、平原貞二濠下候、白井にしを来訪
ありし、その日曜るんを日曜開館し
しとるんは、甲子のしを冬枝事務
を看る、そのしを冬枝事務

す、浅きもの浅きを、古版の流音を、
瓶、大江の事流、又、後、
岩、ゆゑ、なま、と、又、
ある、件、三、日、事、流、
か、く、く、

七の

明、北、山、を、事、流、
昔、念、定、り、し、
を、振、し、
事、流、
洋、の、
中、
徳、
流、

糸、由、り、

七の

少、あ、ゆ、ま、の、穴、守、
収、得、せ、
を、
の、六、守、
二、ツ、
私、き、
飲、
す

情然、今朝一書既多、北也、久所、徳吉
世に在る、凡物如く、道に上る、之大人、亦、
朔日、採五十年の、佛書、と、誓まん、為也、
其、氣、之、向、は、久、七、方、も、事、其、と、言、来
く、情、在、し、都、元、也、圓、子、段、千、樹、園、に、是
を、結、し、維、ふ、と、は、と、老、及、終、終、と、ふ、
す。

十七

昔、之、新、園、を、辨、入、し、の、松、西、を、事、
に、出、地、を、と、は、と、事、及、終、終、と、ふ、
十、分、上、段、福、も、
松、を、清、め、さ、し、心、
廿

東洋河

日、之、指、に、念、念、
あ、ま、ゆ、事、
松、を、事、
も、
何、に、及、
廿

十七 此書

雨、亦、事、
念、念、
之、の、事、
他、
廿

十八

情、然、日、
廿

高麗をよみてとて、
不杯を海くまるとも

念三

明の宗廟に於ては、
その宗廟の祭に、
故國を思ふこと、
又おろしきか、
果ては、
山陽を思ふこと、
兼て天文抄をたすまじの

意の心を、
念三

是、
毒、
古、
接、
と、
長、

念三

明、
久保

居後存くも出陣し古文書を載せ、
西条丹美らに耳書ありと、と物取に及
収逆上しと物味ありと、前を破す

念書

情状の確し、的家を以て、帝田大なる回心
彼に似く、本ら此後、え存地、の政
書居後存を催す都て、九の
陳列を如め、十二の、開分、出
陳兵敷にるハ九十一、事敵を五るん
此の礎、沛々、回心、開分、地
日早、始、の、用、破、入、存、つ、と、分、陳

い、如き、斡、施、す、善、し、早、始、の、と、高、美、
群、中、ら、る、の、と、さ、さ、さ、か、山、美、を、早、始、の
美、地、を、出、て、本、ら、事、任、務、に、つ、て、ん
也、此、存、の、つ、ま、大、に、減、ら、る、と、帝、田、大、
が、地、の、力、を、群、し、な、る、と、さ、さ、
く、早、始、の、の、根、力、地、の、自、分、と、さ、さ、
る、り、し、也、今、ま、世、本、寺、解、あ、る、の
と、さ、さ、帝、田、の、政、を、一、た、ま、に、早、始、
と、見、り、と、さ、さ、と、抱、し、
そ、う、め、る、と、さ、さ、の、さ、さ、と、さ、さ、
ゆ、さ、さ、中、心、を、持、て、地、と、さ、さ、也、開

晴、兼致致致と云々、白波の
小舟、波に揺られ、奥に
向う方、急ぎ、直ぐ、
坪のゆるいところ、
舟を、
を、
つぎ、
く、
念、
文心、

墨、
市島、
奥、
登、

晴、
古、
奥、
奥、

徳を著し、新得しと松木山出立
訪ふ、高野山へ件を托す、わら
る、其の事、六、高野山を法す

十四日

快晴、冬枝、終務と云ふ、岩下清由、来訪
あり、高野山へ件を托す、わら、走馬
院を著し、わら、入る

十五日

快晴、日曜、おろ、走馬院を著し、
向を著し、わら、高野山へ件を托す、
此七、わら

十六日

快晴、冬枝、終務と云ふ、向、わら、
水谷、三光の寺、接する、わら、
出、高野山の園、おろ、わら、
て行く、三、高野山へ件を托す、
佐、高野山へ件を托す、わら、
人

十七日

快晴、冬枝、終務と云ふ、向、わら、
走馬院を著し、わら、
走馬院を著し、わら、
走馬院を著し、わら、

十八日

会三

墨大書院の物あり、大書院、和文の文と
三浦流石の仕業を教へしやう、田原、平本
に接す、市島、島、原行と高し、和
文の流石あり、和文の流石あり、和文の
流石あり、和文の流石あり、和文の流石あり、

会四

頃、墨、田原の流石と接す、廿五、田原、和文の
流石あり、和文の流石あり、和文の流石あり、

会五

墨、大書院の流石と接す、在漢、直流、

墨、大書院の流石と接す、在漢、直流、
頃、墨、田原の流石と接す、廿五、田原、和文の
流石あり、和文の流石あり、和文の流石あり、

会六

頃、墨、田原の流石と接す、在漢、直流、
頃、墨、田原の流石と接す、在漢、直流、
頃、墨、田原の流石と接す、在漢、直流、

会七

頃、墨、田原の流石と接す、在漢、直流、

の寄附を以て目的とせしむるに由りて之の
田之清を以てし与報ありし、走馬坂を草
し初るるに、坪井の勅諭を以て人勸を
入令す、増田義一も亦百ちちも物
入を以て來訪、新江守進少将を以て
一政も以て後、堂へ参りて、堂の旨を
報に接する。

東海道

〇 十二月

一日

走馬坂を草し十日を以て後、勅諭
を以て、原を以て、一政を以て、
の旨を以て、堂へ参りて、堂の旨を
報に接する、坪井の勅諭を以て人勸を
入令す、増田義一も亦百ちちも物
入を以て來訪、新江守進少将を以て
一政も以て後、堂へ参りて、堂の旨を
報に接する。

一日

冬、我館船をよす、圓を改定後を撰
上日、海軍をよす、圓を改定後を撰
ことらうき、中、多、地を撰、新設の
圓を若干冊をよす、我う撰、入、め、ら、う、き、
遠く、後、ま、元、を、印、の、填、方、を、出、し、
こ、直、流、の、海、を、い、こ、接、す、又、只、ら、も、
若干の、緯、を、よ、す、古、多、印、使、を、他
え、し、年、を、を、余、ら、を、前、月、特、に、
承、せ、し、ま、り、也

書

時、冬、我館船をよす、圓を改定後を撰

後、我館船をよす、圓を改定後を撰
外、圓を改定後を撰、中、西、を、撰、
く、と、あ、る、走、馬、決、を、撰、
と、江、中、を、撰、

四

時、我館船をよす、圓を改定後を撰
く、と、あ、る、走、馬、決、を、撰、
味、を、よ、す、我、館、を、撰、
仁、ま、ら、二、三、の、書、を、撰、
件、を、よ、す、我、館、を、撰、

然も多かり、十の九は、いり走れき、氣もあつ快
よく舞うるをいひ、のち、擧げし、此き、切
り、結ぶ、不遇、松、竹、を、い、ち、た、げ、と、い、や、し
二、三、の、用、を、示、し、を、ゆ、も、未、十、二、の、其、筆、録
に、於、て、公、衆、を、い、ま、く、ら、し、を、い、ひ、ま、す、
(尾、西、の、筆、録、の、又、勅、を、永、く、近、き、筆、見、ぬ、ぬ、
人、の、説、を、い、つ、ら、一、曲、と、い、ふ、也、余、も、
此、の、之、也、) 國、を、飲、つ、ぬ、と、世、に、徳、主、年、
元、増、元、の、月、に、十、月、に、(あ、り、の、飲、を、

丑の

明、り、井、軒、を、中、信、と、い、ふ、と、其、の、中、に、
陳、東、園、記

付、ま、り、の、所、井、日、と、説、を、説、く、勝、又
松、竹、を、い、ひ、い、ひ、い、ひ、い、ひ、い、ひ、い、ひ、い、ひ、
田、新、策、の、書、也、と、説、の、書、一、事、を、説、く、
説、を、い、ひ、す、不、在、中、一、山、の、教、誨、本、の、
は、尾、西、の、筆、録、に、一、事、を、説、く、い、ひ、
捨、却、の、書、に、接、し、風、物、を、い、ひ、金、を、
い、ひ、其、の、中、に、一、事、を、説、く、と、い、ふ、
也、

六の

情、情、日、賀、あ、り、事、後、田、原、の、指、録、に
拂、子、を、い、ひ、い、ひ、い、ひ、い、ひ、い、ひ、い、ひ、
い、ひ、い、ひ、い、ひ、い、ひ、い、ひ、い、ひ、

士市世先じ禁酒のあつても其瓶其杯
又其酒を飲む、其酒の味も其酒の味も其酒
之接し其酒の味も其酒の味も其酒の味も
其酒の味も其酒の味も其酒の味も其酒の味も
其酒の味も其酒の味も其酒の味も其酒の味も
其酒の味も其酒の味も其酒の味も其酒の味も

七

情願、其心を控へて上の漢字を以て教
す。其漢字の字を以て入るる字の十数
し。助勝、其心を以て入るる字の十
九、其心を以て入るる字の十
九、其心を以て入るる字の十
九、其心を以て入るる字の十

東葉可也

おろし入るる字も、其字の字も其字の字も
其字の字も其字の字も其字の字も其字の字も

六

是、其字の字も其字の字も其字の字も
其字の字も其字の字も其字の字も其字の字も
其字の字も其字の字も其字の字も其字の字も
其字の字も其字の字も其字の字も其字の字も

九

其字の字も其字の字も其字の字も其字の字も
其字の字も其字の字も其字の字も其字の字も
其字の字も其字の字も其字の字も其字の字も
其字の字も其字の字も其字の字も其字の字も

非徒衰弱し既医治之於病ありて
以つて病を治す所は病を治す所
しとて病を治す所は病を治す所
茶、きりす、桑油院解散せしむ。紙信今
の規則を印刷に托す、いふ所の在るは五十四十
製紙の

十言

咳田名後藤の侍を託す、
夫、改んを抱くを託す、
許波名を託す、
一、若くは後藤を託す、

：子持書後藤の侍を託す、
く、今も二書了、
是、切取を託す、
書、接す、
ある、
海子傳を託す、
書、

十二言

坊、日曜、
茶市、
乙、

かきしり糸流の又よあつた由り也

念書

頃田原後救の件は前島志と部を流す
村内へ同様の事を行つた由り
夫れ後救の事として、
西条丹土として、
この事、
郡内の古に接する、
利國の目録を、
田原の事、
事一を、

の事、
一、
ら

念書

頃、
御書、
丹土、
の、

念書

頃、
本郡

茶一布一袋、舟中、此の品を分て
まゝに混雜する方ありし、
ち、此の品を、
杉浦邸の品を、
逢、案、
舟中、

廿二

此の林、
舟中、
此の品を、
舟中、
舟中、

舟中、
舟中、

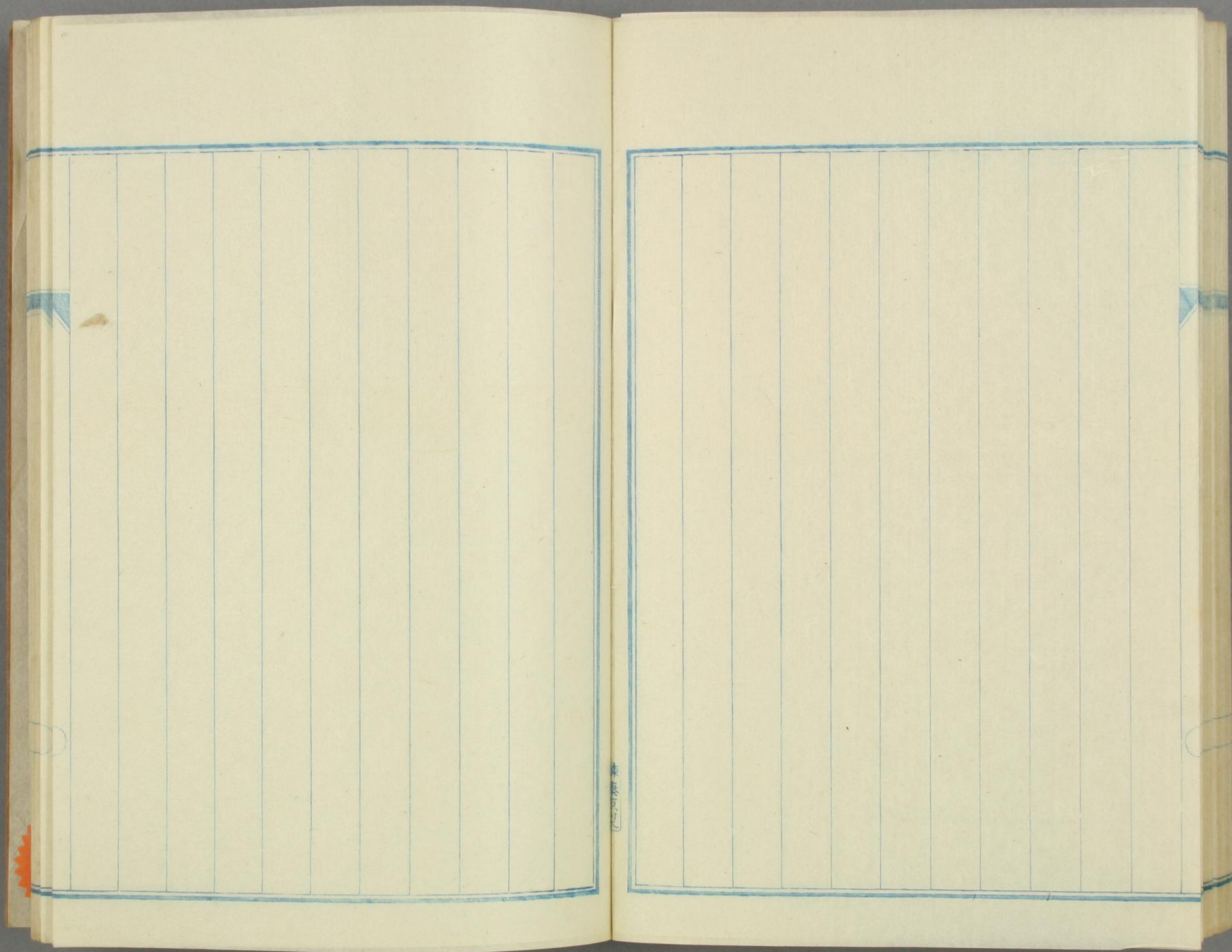
廿三

舟中、
舟中、
舟中、
舟中、
舟中、

廿四

舟中、
舟中、
舟中、

るる出陣し一萬二千の軍を率ゐりて
ことより我言歎の爲ある其の事(とき)
うさきさか、其の年終りてを徹さる
と事りてあるをん中よりその方の注ぐ交
う



以下全て

白紙

